編集後記

日本医史学雑誌が，長年慣れ親しんできた縦書きA5判から，横書きB5判に変更して1年を経過した．投稿原稿が増えてきたのは，雑誌の新しい判型が広く受け入れられた証左であろう．喜ばしい限りである．投稿された原稿の査読と審査の迅速化も心がけているが，投稿数が増えているために，掲載までの時間がかかるようになっている．現在，学会抄録号を除いて年間3号を発行しているが，その号数を増加することが望まれる．

昨年の総会で，投稿規定の改定案が承認されて，文献の引用に当たっても医学系の雑誌で一般的なバンクーバー方式で表記していただくこととなった．実際に運用してみると，思わぬ問題を生じることがある．編集委員会と著者の間で協議をして，一つひとつ問題点を解決する必要が生じている．バンクーバー方式では，注の文章の中に書誌事項を表記することが難しいために，注と文献の欄を分けた方がよいということになった．実例としては，本号に掲載された英文のAkiyama論文を参照されたい．

日本医史学会には，我が国の医学史についての深い学識をもった研究者が多数集まっており，これまでに豊富な研究成果が発表され蓄積されている．雑誌も横書きになったことで，欧文の論文を掲載するための環境が整備された．我が国の医学史についての研究成果を扱う欧文論文が投稿され，世界に向けて発信されていくことをとくに期待したい．

（坂井　建雄）